

12月14日(土曜)「わがセンセの学(楽)問のススメ」講演会アンケートについて

第1部講演『火山の噴火とその災害』 三浦 大助 先生への質問

○ 火山の噴火研究を生涯のテーマにしたキッカケは何かあったのですか？元々山がお好きだったのかなと思いましたが、特別な何かがあったのでしょうか？

【回答】高校生の時に地学の授業を受講でき、地学の先生に色々と教えていただいたのが良い経験であったと思います。

○ 喜界島の噴火の影響は想像したより長かったようですが、その間の花粉がないということは、植物も壊滅したということなのでしょうか。また、火砕流やサージはどの辺まで及んだのでしょうか。

【回答】鬼界噴火の火砕流や火砕サージは、種子島、屋久島、大隅・薩摩半島などで広く見つかっています。植物花粉が検出されない地域は、火砕流・火砕サージが堆積した周辺（直接的な影響を受けた場所）で、植生の回復に200年ほどかかったと考えられています。

○ 火山活動と巨大地震の発生(予兆)について相関関係はございますでしょうか。

【回答】たいへん答えるのが難しい質問です。有名な事例は、江戸時代に発生した1707年宝永巨大地震と、その49日後に生じた富士山宝永噴火です。しかし富士山の過去の噴火記録を調べてみると、巨大地震が発生すれば富士山が必ず噴火するという訳ではないようです。

○ 2年前のトンガ噴火で学者の先生方が津波の予見をされなかったのが不思議でした。素人達から見れば海底からあれだけの膨張があって津波が起きて当たり前と単純に思うのですが、逆に研究をされている先生方には津波が起こり得ないと考える根拠があったのかなあと感じていました。ご質問というよりは、不思議に思ってる素人達がいると知っていただきたかったです。

【回答】津波は地震、地すべり、火山噴火に伴う海底の地殻変動が主因とされ、VEI 5超の噴火で生じた津波としては1883年Krakatoa噴火の事例が有名です。一方で、トンガの噴火に伴って日本にまで到達した津波は、気圧変化との関連が指摘されており、従来の知見だけでは予測が難しかった可能性が考えられます。